

## 第1学年 英語科学習指導案

1年3組 男子 23名 女子 17名 計 40名

指導者 中川 拓也

【授業】 13:30~14:20 会場 1年3組 (2階)

【協議会】 14:30~15:20 会場 学習室 (2階)

### 1 題材名 *Our Steps to the Next Grade*

### 2 題材について

#### (1) 題材設定の趣旨

本題材では、1年間の思い出を語り、それを踏まえて英語で語らせたい。生徒たちは1年間の学校生活を通して、中学校生活がどのようなものかわかってきた。思い出を振り返ったり自分が成長した点や2年生に向けて現在頑張っていることをお互いに語ったりすることで、次年度への希望を高めるきっかけとなる。

本授業づくりにおいては、学習指導要領に定める、1目標(3)話すこと〔やり取り〕ア〔日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。〕を目標とし、1年間の思い出や現在努力していること、そして来年度の希望を即興で語らせたい。

本時では、授業内での生徒たちのやり取りを英語話者が実際に普段行っているやり取りに近づかせるために、話者交代と相手の話に反応する指導をしていきたい。話し手と聞き手が円滑に交代する話者交代をする手段として、話し手が切りのよいタイミングで質問をしたり、「～だよな？」などの付加疑問で聞き手と話す役割を交代するものがあると考えられる。やり取りをする際には相手が言ったことに対して、相づちや簡単なコメント・質問を英語でするなど授業内での生徒たちのやり取りが実際に普段行われているやり取りに近づくよう指導したい。

言語材料としては1学年の既習事項を活用してやり取りをさせるが、特に思い出を語るために過去形、現在努力していることを語るために現在形、そして来年度の希望を語る際には **want to**～を使うことが考えられる。本題材は1年間の思い出や来年度の展望など、比較的自由に話題設定することができ、自分の興味関心のあることに関して幅広く話せる課題である。また、「やり取り」の活動の中には、自分の言いたいことを言うだけの「発表」の活動になってしまうことがある。本授業を通して、生徒を「話し手」としてだけでなく、相手が言ったことに対して相づちや簡単なコメント・質問をすることや意識的に話者交代することで、「聞き手」としても育てたい。

本時では、「1年間の思い出」と「2年生で挑戦したいこと」というパーソナルなトピックでやり取りを行う。生徒自身の思い出や来年度挑戦したいことについて話すことで、「自分のことをもっと知ってほしい」という意欲だけでなく、お互いに聞き合うことを通して「相手のことをもっと知りたい」という意欲も高めたい。

#### (2) 生徒の実態

生徒たちは、日常的話題について2分間程度続けて話をするができる。しかし、話し手は自分の話をするに集中するあまり、一方的な発話になってしまい、やり取りとは言えない場面が多く見られる。また、聞き手も話し手からより詳しい情報を得るための適切な質問をすることができないことがある。

本時では、既習の言語材料 **be** 動詞・一般動詞の現在形と過去形を活用し、普段していることや過去にしたことを英語で話す。それに加え、良い聞き手になるために、適宜相手に話題を振りながら話者を交代することが重要であることに気付かせたい。

### (3) 指導の構え

#### ・インタビュー・マッピングの活用

相手のことについて知ろうとしたり共通の話題を深めたりする上で、話し手だけでなく聞き手の役割が重要である。本時では「1年間の思い出」と「2年生でがんばりたいこと」というテーマに関して、英語でやり取りをする。やり取りの中で、相手が話した内容について質問をすることで共通の話題を深めるために有効な「インタビュー・マッピング」を活用させる。インタビュー・マッピングとは相手の発話したキーワードをノート等にメモする活動である。生徒たちはそのメモしたことについて質問していき、話題について深掘りすることができる。

#### ・話者交代の工夫

やり取りの目的はその話者によって様々であるが、本時では「1年間の思い出」と「2年生でがんばりたいこと」について話すことを通して、相手のことについて知ったりお互いの考えに共感したりすることで、よりよい人間関係を築くことにある。話し手が一方的に話してしまうと、聞き手は自分の話したいことを伝えられずに終わってしまう。そのため、話し手が適切なタイミングで話者交代をする必要がある。Stenstrom(1994)によれば、話者交代の手段として、①Taking The Turn (ターンの取得)、②Holding The Turn (ターンの保持)、③Yielding The Turn (ターンの譲渡)の3つを挙げている。本校生徒の実態として、自分の話をし過ぎてしまい、相手の話を聞く時間がなくなってしまうことがあるという実態から、本時は特に③Yielding The Turn (ターンの譲渡)に焦点を置き、指導する。ターンの譲渡の手段としては、話し手が自分が話したい内容を言い終わった際に「How about you?」などを言ったり、「～don't you?」のような相手に念を押したり、同意をもとめたりする付加疑問などがあることを提示する。本来のやり取りにおいては、このような話し手からの明示的な言葉だけではなく、非言語的な合図を感じ取り話者交代をしていくものだが、生徒の実態を鑑み、現段階では言葉による合図で話者交代をさせたい。

### 3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

#### 本題材が目指す「深い学び」の状態について

2年生で挑戦したいことについて、お互いの考えを伝え合ったり質問し合ったりすることで、共感しながらやり取りを深めようとしている。

本題材における「深い学び」の状態は、「1年間の思い出や2年生で挑戦したいことに関連付けて、適切に話者交代をしながらお互いの考えを伝え合ったり質問し合ったりすることで、共感しながらやり取りを深めようとしている。」と位置付けている。本時ではこれを実現するために、話し手が一方的に話すのではなく、適宜話者交代を行い、相づちや質問等をはさみながら会話を進めていくことを指導する。

### 4 題材の目標

○1年間の思い出や2年生で挑戦したいことについて、共感しながら質問したり自分のことについて述べたりすることができる。

### 5 全体計画 (全4時間)

第1次	インタビュー・マッピングの使い方について知る。	………… 1時間
第2次	インタビュー・マッピングを用いて、ペアでやり取りをする。	………… 1時間
第3次	インタビュー・マッピングを用いて、ペアで2年生で挑戦したいことについて話す。 (本時)	………… 1時間
第4次	2年生で挑戦したいことについて作文する。	………… 1時間

## 6 本時の学習（全3／4時間）

### （1）指導目標

- ・話し手と聞き手の役割を適宜交代し、相手の話に共感しながら質問したり自分のことについて述べたりできるようにする。（思考・判断・表現）

### （2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 あいさつ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体</span>(1)</p> <p>2 1年間の思い出についてペアで話す。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペア</span>(6) (例1) S1: I enjoyed our school trip in Tonami. I made new friends then. Also, I enjoyed many attractions. S2: That's nice. I like wall climbing. S1: Me, too. S2: I enjoyed the chorus contest. At first, we didn't sing well. At the end, we got a first prize at the contest.</p> <p>3 指名されたペアが発表する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体</span>(8)</p> <p>4 課題の提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と生徒でやり取りをすることで、生徒がどの話題で話すか想起しやすくする。</li> <li>・机間指導を行い、生徒がどこでつまづいているかを把握し、個別に支援する。</li> <li>・相手に共感していることを伝えるために、相手の発言に相づちをうったり質問や意見を言うことが重要であることを共有する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表したペアのやり取りの内容から、教師が全体へ質問したり、考えを聞いたりして話題を共有する。</li> </ul>
<p>適切に話者を交代し、2年生で挑戦したいことについて共感を示しながら英語で話そう。</p>	
<p>5 来年度挑戦したいことについて考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人</span>(2)</p> <p>6 インタビューマッピングを用いて、ペアで来年度がんばりたいことについて話す。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペア</span>(6) (例2) S1: I'm not good at math. So, I want to study it more. S2: <u>Sounds good</u>. I'm not good at math too. S1: <u>Oh, are you?</u> Let's study together. What do you want to try? S2: I see.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話したい内容やどのように英語で伝えたらいいか考えさせる。</li> <li>・机間指導を行い、生徒がどこでつまづいているかを把握し、個別に支援する。</li> <li>・お互いに共感しながらやり取りをするために以下の点を押さえる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① お互いの話をするために、適宜話者交代をすること。</li> <li>② 共感していることを伝えるために、相づち・意見・質問を適宜入れること。</li> </ul> </div>

<p>7 指名されたペアが発表し、全体で共有する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体</span>(10) (例3)</p> <p>S1: I like my classmates in this class. But I want to make new friends in the new class.</p> <p>S2: <u>Sounds good! Me, too.</u></p> <p>S1: <u>Do you want to make new friends?</u></p> <p>S2: Yes, I do. But I want to be with my classmates more. This class is so nice.</p> <p>S1: I think so too.</p> <p>By the way, <u>what do you want to do in the next grade?</u></p> <p>S2: I'm a member of the soccer club. In the next grade, I want to win a lot of games.</p> <p>S1: <u>I see.</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表ペアのやり取りの内容から、教師が全体へ質問したり、個別にコメントを求めたりして話題を広げる。</li> <li>発表した生徒から出てきた表現で他の生徒が理解できないものがある場合や発表者が何と英語で言えばいいかわからないものがある場合は教師が補足する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手の話を聞き、その内容に関連付けて質問したり自分のことについて述べたりすることができる。(思・判・表)【観察】</p> </div>
<p>8 同じペアでやり取りをする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペア</span>(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューマッピングを使用せず、即興でやり取りさせる。</li> <li>6と同じペアでやり取りをさせることで、1回目ではできなかった質問や言えなかった表現を言えるようにする。</li> </ul>
<p>9 指名されたペアが発表し、全体で共有する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体</span>(10)</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ペアでのやり取りを通して、主体的に参加し、来年度挑戦したいことを伝えようとするすることができる。(態度)【観察】</p> </div>
<p>10 あいさつ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体</span>(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時は本時で発話した内容に関して英語で作文することを伝える。</li> </ul>

## 7 授業観察の視点

- 本題材での目標にむけて、インタビューマッピングの活用は発話を促すのに効果的であったか。
- 本題材での目標にむけて、適切な機会に話者交代を促す問いは、本時のねらいに迫るのに効果的であったか。

## 8 参考資料

- 中井 陽子(2003). 「言語・非言語行動によるターンの受け継ぎの表示」
- 三仙真也・高杉達也・富藤賢治・中嶋洋一・山内崇史(2006). 『階層式マッピング』で鍛える『思考・判断・表現』 英語教育10月号より
- Josef Williamson.(2019). A Pragmatics Explanation for Japanese English Turn-Taking Contrasts and the Need for Pedagogical Intervention
- Stenstrom, A.B. (1994). *An Introduction to Spoken Interaction*. London and New York: Routledge.